

都市再生整備計画事業 事後評価シート

名瀬中心拠点地区(第4期)

令和7年3月

鹿児島県 奄美市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	奄美市	地区名	名瀬中心拠点地区(第4期)			面積	68.8ha		
交付期間	令和3年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	419百万円	国費率	0.482				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名								
	基幹事業	○【公園】やのわき公園整備事業 ○【高質空間形成施設】道路修景整備事業									
	提案事業	○【地域創造支援事業】中心拠点賑わいづくり事業 ○【事業活用調査】各種調査業務(通行量調査) ○【まちづくり活動推進事業】イベント開催等									
			事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	(仮称)子育て・保健・福祉複合施設整備事業	事業の再検討により次期計画(第5期)において計上予定		有					
		提案事業	地域創造支援事業【中心拠点賑わい再生事業】	基幹事業費の減額に伴い提案事業を調整し削除		有					
新たに追加した事業	基幹事業	なし	-		-						
	提案事業	なし	-		-						
交付期間の変更	当初	令和3年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
	変更	(第1回)令和3年度～令和7年度 (第3回)令和3年度～令和5年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	計画地区内の交流施設利用者数	人/年	138,176 R2	148,498 R5		165,463	○	あり なし	コロナ禍が続き施設の利用制限も続いていたものの、新たな市民交流センターの開館や新型コロナウイルスの5類移行等を踏まえ、人の動きが各種イベントが再開し、交流施設の利用者数は増加傾向にある。	
	指標2	計画地区内の入込み客数(宿泊客数)	人/年	190,718 R2	202,300 R5		152,239	×	あり なし	来島者はコロナ禍により大きく減少したが、令和3年7月の奄美・沖縄世界自然遺産登録や新型コロナウイルスの5類への移行等を踏まえ、奄美大島への入込客数は回復傾向にある。また近年は、名瀬港マリタウン地区への新たなホテル整備も進められているが、本計画区域内の宿泊客数は目標達成には届いていない。	令和8年4月
	指標3	計画地区内の営業店舗数	店舗	276 R2	294 R5		277	△	あり なし	中心市街地における店舗出店への家賃補助やリフォーム工事支援やイベント開催による賑わいづくりに取り組み、新規出店が増えた一方で、既存店舗の高齢化や労働力不足等の影響により閉店なども発生し、目標達成には届いていない。	令和8年4月
指標4	計画地区内の商店街来街者数	人/日	7,891 R2	7,990 R5		5,577	×	あり なし	市民交流センターの開館や令和5年度以降のコロナ禍からの回復により、商店街や各種団体による各種イベントの開催時には街中への集客が図られてきているが、日頃からの来街者数の増加にはつながっていない。	令和8年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1										
	その他の数値指標2										
4)定性的な効果発現状況	<p>○令和3年3月に「奄美市立地適正化計画」を策定し、中心市街地への公共交通の利便性や誘導施設の整備を計画している。その中で新たな交流施設の整備は、次期計画(第5期)において、具体的に整備計画を整理し位置づけていく予定である。</p> <p>○末広・港土地区画整理事業や名瀬港マリタウン地区整備事業の推進により、民間投資による新たなホテルや高層マンションの整備も進められている。今後の中心市街地の交流人口の増加や賑わいづくりに寄与していくものと期待している。</p>										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	・計画期間の変更により、事業期間を3年に短縮したため、中間のモニタリング調査は中止とし事業評価にて対応することとした。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				事業進捗等を踏まえ、適宜モニタリング等による評価を行いながら、効果的な事業の推進に努める。			
	住民参加プロセス	・公園整備に際しては、地域住民との話し合いをせ行い、地域の意見を取り入れて整備した。 ・コロナ禍状況を踏まえ、商店街や関係団体等と連携し工夫しながら、イベントを開催することができた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後とも、住民参画や官民連携によるまちづくり活動を展開する。			
	持続的なまちづくり体制の構築	・奄美市通り会連合会を主体に「なぜまちまーじんゆらおう計画」を策定した。 ・コロナ禍状況を踏まえ、商店街や関係団体等と連携し工夫しながら、イベントを開催することができた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後とも、多世代が参画したまちづくり方策の検討や、市民や各種団体と連携した官民協働によるまちづくり活動を展開する。			

様式2-2 地区の概要

名瀬中心拠点地区(第4期)(鹿児島県奄美市)都市再生整備計画事業の成果概要

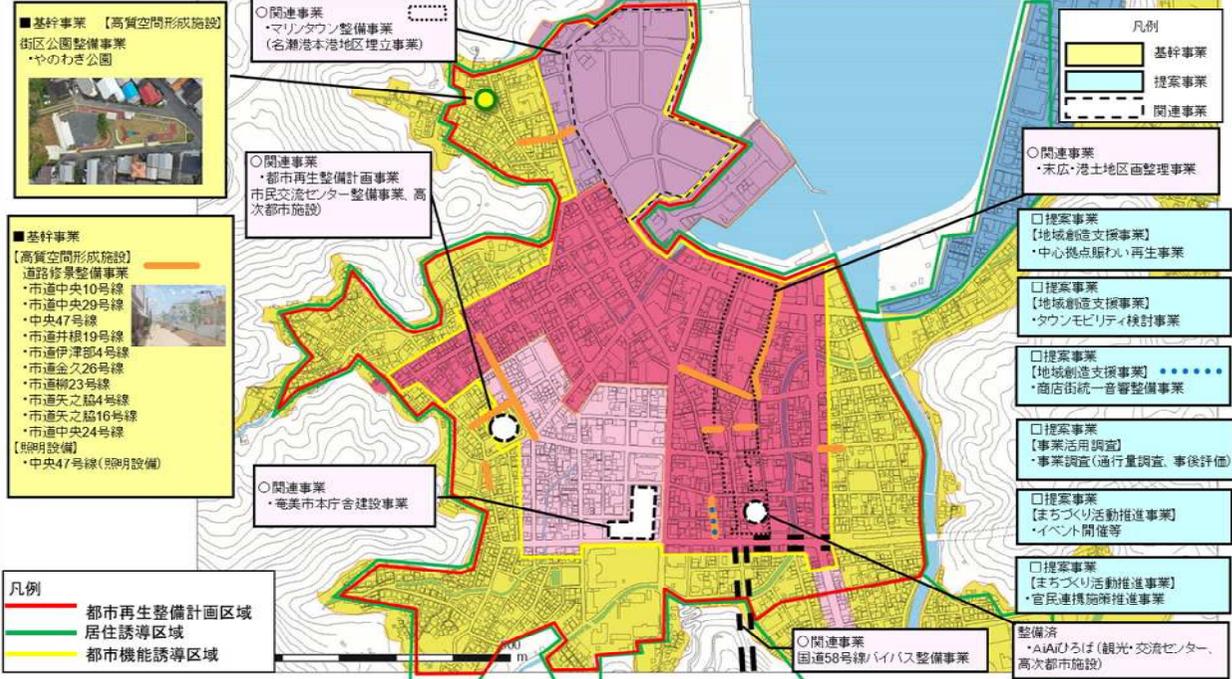
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 市民と観光客がともに集う賑わいあふれる名瀬中心市街地の形成 ～いもーれ・Comeもーれ・ゆていもーれ コンパクトシティ「ゆらうまち」の実現～ 目標① 便利で賑わいがあり、毎日来たくなるまち 目標② “おもてなし”を感じられる、また訪れたくなるまち 目標③ 多様な交流の場があり、ひとの魅力があふれるまち	計画地区内の交流施設利用者数	単位:人/年	138,176 R2	148,498 R5	165,463 R5
	計画地区内の入込み客数(宿泊客数)	単位:人/年	190,718 R2	202,300 R5	152,239 R5
	計画地区内の営業店舗数	単位:店舗	276 R2	294 R5	277 R5
	計画地区内の商店街来街者数	単位:人/日	7,891 R2	7,990 R5	5,577 R5

□基幹事業
道路修景整備事業(金久26号線)



□基幹事業
道路修景整備事業(中央29号線)





□基幹事業
街区公園整備事業(やのわき公園)




まちの課題の変化

- ・市民交流センターの整備により、中心市街地に新たな交流の場が創出し、交流人口の増加が図られているが、次期計画へ延期した末広・港土地区画整理地機内の港町11番街区の土地利用について、施設の価値と機能を十分に発揮できる土地の有効活用と施設の整備計画を検討する必要がある。
- ・道路修景や公園整備等のハード施策とともに、新たな観光への取組等のソフト施策も進められているが、世界自然遺産登録の効果をより一層発揮していくために、名瀬港マリンタウン地区等への民間活力の促進をはじめ、中心市街地の安全で快適な環境整備に引き続き取り組む必要がある。
- ・市民交流センターの利用増進により、多目的な交流が図られているが、引き続き、市民・商店街・各種団体等の連携による官民協働のまちづくりを展開し、交流人口の増加を図る必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・中心市街地における都市機能の集積と交流人口の増加を図る。
- ・観光まちづくりの推進と質の高い観光地を形成する。
- ・多世代にわたる交流と官民協働によるまちづくり活動を展開する。

交流施設の利用増進、商店街や各種団体等との官民連携によるまちづくり活動の展開、基盤整備を活かした民間投資による施設整備などの促進。
 (仮称)子育て・保健・福祉複合施設を中心市街地へ誘導し、街なか公園と一体的に整備することにより、(仮称)健康づくり・子育て支援拠点エリアの形成を図る